

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100841		
法人名	企業組合		
事業所名	グループホーム つどい		
所在地	静岡県沼津市鳥谷5-1		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyousoCd=2271100841-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(1)きめ細かなサービス (2)医療連携のもと、安心してターミナルケアに臨める (3)常に職員の質の向上に努める
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関では見事な胡蝶蘭、シンビジウムが出迎え、居間の円テーブルにはストックが微笑み、「動きがあるもの、愛でるもので囲まれるように」との配慮からだそうで金魚・メダカも加わり、息(生き)あるもので賑やかです。もっとも重きを置いていることが無事故であり、至近距離での見守りと5Sが徹底されています。開設以来20名以上の看取りを経験し、本年も数ヶ月で3名を見送っていますが、暮らしのなかに在る誰もが通る途として「慌てない」「困らない」平常な運営が成されています。協力医と訪問看護のオンコール24時間体制が整い、夜間も管理者が同泊することで2名と心強く、1ユニットと小さいながらも力を尽くしていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理解し日々過ごしていると思う。	オムツ一つとっても理念が生きてとし、「しわがあつたら不快となる。見えないところにも愛を注いでほしい」と管理者が言い続け、概ね浸透していると捉えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのコンビニやコーヒー店に入居者と出掛けたり、新東名のサービスエリアまでドライブして外食を楽しんだりしています。	地域の防災訓練に参加していませんが、運営推進会議を夜間に開催することで地域リーダーの出席を得ています。近くの珈琲ショップには利用者を数名で分け、順次甘味を味わっています。	ボランティアの受入れについては「静寂が優先なら傾聴」「歓びとしてならメイクセラピー」と検討し、オープンな運営につながることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に相談にのったり、家族介護教室に出向き話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の情報をいただいたり、地域の方にはグループホームを理解してご協力いただけるよう努力している	隔月を目指しているものの、3回に留まっています。水害についての認識が深まったり、一般的には認知症への関心が高まっていることなどを知る機会として役立っています。	年間計画によって、特段の理由のない限り変更せず実施することを期待します。また、家族が参加しやすいように「つどいの茶話会」といった名称の工夫も一考ください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の運営する介護教室への協力等、積極的に行なっている。	開設から10年を経て市役所には顔見知りもでき、運営推進会議へは地域包括支援センター職員が足を運んでくれます。介護相談員の来所も毎月あり、折り紙をつくりながら傾聴くださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の尊厳を理解し、常に質の高いサービスに努めている。	「安全確保と拘束は表裏一体の側面をもつ」とし、「自分だったら」「家族だったら」との基軸を以て取組んでいます。勉強会はおこなっていませんが、見守りを徹底しているため「見守りと見張りとの違いは心の在り様」と終始管理者が口伝しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会を開くなどして、職員の意識を高めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を共に学び、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に分かり易い説明と質問に答えられるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部から見えた方や家族の方には、気になる点や感じた事を教えていただける様に声掛けをし、ミーティングで共有している。	家族会はなく、また意見も入らないものの付け届けやおみやげがあることから「満足している」と受けとめています。「月1回は面会してもらいコミュニケーションをとりたい」との考えから、料金を現金支払いとしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りノートや、申し送りの際の活発な意見交換がある。	会議では「何か意見はありますか」と補足することで、言い出しにくい人をフォローしています。自宅からおせち料理を持ち込んでくれるといった職員の心づくしには、事業所から物心両面で感謝を表しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小さな職場で出来る事は何か、離職がない為の努力を常に心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員レベルに合わせた介護現場と声掛けを心がけ、自信につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に参加、交流している。受け身ではなく、働きかける側になれるように努力していきたい。近隣のグループホームとの情報の共有はできています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	細かな観察や声掛けをしつつ、不安を取り除き、居心地の良い場所作りを早期にできる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訪問時には状況を報告し、家族の話を傾聴して提案や方向性を示している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決め、一つずつ努力している、今できる事は何かを常に求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族であると思って接している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私共に出来ない唯一の事は、家族との関わりと考えて、常に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に出入り出来る雰囲気や、居心地の良い時間作りに努めている。	面会時間を定めず受入れているため、仕事帰りに気軽に訪れる家族もいます。また面会では職員は少し離れた処でひかえ、水入らずで話ができるよう気遣っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	丸テーブルは私共の一つのこだわりであり、有効利用しながら調和の取れた生活ができるように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から近況報告をいただいたり、季節の挨拶などを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	正確な思いを受け止める事が大変困難な方もある中、表情や笑顔から思いをくみとるよう努めている。	「静かだから」と話しかけないで過ごさせてしまう職員もいることから、管理者から「話す努力を」と繰り返し伝えていきます。会話のなかで読み取った言葉や感情の変化は引き継ぎで共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や会話から把握する努力をしてる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当を決め、深く関わる事で個人個人の特性を理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者からのモニタリング報告を基に、家族の意見や、夜勤者の報告など担当者会議で話し合い、共有してプランに反映している。	ケアマネージャーは2事業所の兼務者で、モニタリングも同職がおこなっています。家族意見は面会で聴取しています。訪看ノートもプランの参考としています。	プランの仕組みについて職員の学びの機会をつくり、またできる限りサービス担当者会議を適切に運営することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りと、月に1度の担当者会議で、情報の共有とプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時によっては、病状の悪化に備えて夜勤2人態勢をとるなど、その時のニーズに合わせて柔軟な取り組みを心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者のニーズに合わせて、個別に対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の他にも、かかりつけの歯科受診等、本人の希望を重視して地域医療との連携を図っている。	現利用者は協力医に変更しており、全体と個別とでそれぞれ往診があります。皮膚症状など日常的变化は訪問看護から協力医へ一報が入り、処方外用薬で賄えていて、医療連携が叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診記録、訪問看護記録は分かり易く記載し、情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病院への訪問や、診療情報の共有、入所前の病院訪問など、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化及び終末期の方針を話し合い、充分理解したうえで、支援体制を整えている。	開設以来20名以上の看取りを経験し、本年も数ヶ月で3名を見送っています。協力医と訪問看護のオンコール24時間体制が整い、夜間も管理者が同泊することで2名と心強く、1ユニットと小さいながらも力を尽くしていることが覗えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の情報を共有し、細かな観察を心がけ、十分対応可能な体制作りをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時の訓練を行い、自治体との協力体制、避難方法などの情報を共有し災害に備えている。	夜間想定避難訓練では懐中電灯で誘導しての経路確認をおこない、また関連業者から消防機器の取扱説明も受け、より実践的に体験できました。防災用物資を購入しましたが、設置には至っていません。	備蓄を整え、できれば発電機といった付帯用品の検討を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護保険法を遵守し、十分な配慮をしている。	「親しさゆえに乱雑となっていないか」と問いかけ、自らの発語を書面に書き出す取組みが啓発となっています。いい言葉、わるい言葉と一律とせず「本人がどうか」「第三者が聞いたかどうか」を物差しとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	仕事に追われないよう時間配分に配慮し、入居者の声に耳を傾け、声掛けができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手先の仕事ではなく、心を込めた仕事をするよう心掛け、寄り添うサービスに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔、着やすさ、その人らしさを心がけている。誕生日には似合いそうな小物を贈るなど、心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大事にし、食器、食材、色どりなどを大事にしている。入居者と共に、ケーキのデコレーションをしたりして楽しんでいます。	重度化により食事作りをする利用者はいません。職員が3食手造りし、小鉢を駆使した盛り付けで彩ある食卓が広がっています。行事には昔ながらのお赤飯が定番となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量、水分量は毎日チェック表で確認し、食の形態、介助法は、担当者会議で情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自に適したケア方法、用具、介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パッド数を減らし、各自に応じた、トイレ、PTトイレの使用。定時誘導、訴えにより誘導等、話し合いで共通認識で行なっている。	日中の支援を充実させることで夜間対応が軽減することもあり、チェック表によるタイミング把握のうえ「トイレで」を基本としています。便秘症状では薬は使わずセンナ茶を服用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で管理し、食事や散歩、センナ茶、ヨーグルト等、各自に応じた援助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全な体制を心がけ、安心して入浴できるように努力している。好みの時間や温度の要望にも添えるよう余裕を持って支援できるよう心がけている。	週2日入浴日として1日に9名全員がかけ流しの湯に入っています。外(着脱やドライヤー)、中(湯船)、中間(誘導)と3人介助で重度化にあたっています。柚子や茶がらのかわり湯も導入しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔を心がけ、室温調整、換気などに注意している。香りも大切に利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で情報共有して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒー好きの方にはコーヒー店までお連れしたり、花好きの方には水やりをお願いするなど、個性を大切にしながら調和のとれた生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コーヒー店、コンビニ、散歩コースなど恵まれた環境にあるので、その日の体調、天候に合わせて支援している。	かつては回転寿司をはじめ外食にも月1回はかけていましたが、現在は身体的に難しく断念しています。週に1度程度ある珈琲ショップの甘味とコンビニエンスストアでの買い物を愉しみとしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニでの買い物の際などには、所持し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みをしていただいたり、塗り絵をした手紙を出すなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームから菜園が見える工夫をしたり、明るく清潔な空間、室温や換気に十分配慮し、快適にすごしていただけるようにしている。	見事な胡蝶蘭とシンビジウム、居間の円テーブルにはストック、金魚・メダカも加わり、息(生き)あるもので賑やかです。5Sと清掃が徹底された清浄な居間では掃き出し窓から差し込む日差しに微睡む利用者の姿がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の会話の仲介をしたり、それぞれが読書や書き取りなど好きな事をして過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物は自宅から持参していただき清潔で使いやすい居室作りを心がけている。	前入居者が置いていったベットや家具を再利用している居室もあります。孫の写真、ぬいぐるみ、吊るし雛と個々の趣がみられ、床は埃一つありません。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや家具の配置などを工夫し、できる力を大切に、きめ細かな援助を心がけている。		